



平成29年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月10日

上場会社名 株式会社ツカダ・グローバルホールディング 上場取引所 東
 コード番号 2418 URL http://www.tsukada-global.holdings
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚田正之
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 山崎誠広 TEL 03-5464-0081
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第3四半期の連結業績（平成29年1月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	39,833	2.6	1,346	59.9	1,445	428.1	594	—
28年12月期第3四半期	38,829	2.5	842	△70.3	273	△90.4	△141	—

(注) 包括利益 29年12月期第3四半期 406百万円 (ー%) 28年12月期第3四半期 △845百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第3四半期	12.46	11.15
28年12月期第3四半期	△2.93	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年12月期第3四半期	82,280	34,141	39.6
28年12月期	84,752	34,228	38.5

(参考) 自己資本 29年12月期第3四半期 32,579百万円 28年12月期 32,618百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	—	5.00	—	5.00	10.00
29年12月期	—	5.00	—	—	—
29年12月期 (予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年12月期の連結業績予想（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,600	9.5	4,300	22.3	4,500	25.0	2,800	43.4	58.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）一、 除外 一社（社名）一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年12月期3Q	48,960,000株	28年12月期	48,960,000株
② 期末自己株式数	29年12月期3Q	1,259,834株	28年12月期	1,259,834株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年12月期3Q	47,700,166株	28年12月期3Q	48,212,951株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報)	8
3. 補足情報	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による各種経済政策の効果により、個人消費の持ち直しや企業収益及び雇用情勢の改善など緩やかな回復基調で推移したものの、中国をはじめとするアジア新興国等の経済・政策に関する不確実性の存在など、先行きについては引き続き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループはブライダル市場、ホテル市場並びにウェルネス&リラクゼーション(W&R)市場における新たな価値の創造、高品質かつ魅力あふれる店舗づくりと付加価値の高いサービスの提供に取り組む、個性化・多様化するお客様のニーズに的確に対応することで、売上高の拡大と収益性の向上に努めてまいりました。当該方針に基づき、当第3四半期連結累計期間においては、沖縄県への初進出や新店である「ザ ストリングス表参道」(東京都港区)、「アートグレイス ネクスト 芦屋」(兵庫県芦屋市)の開業準備、平成29年9月には総合フィットネスクラブ「BEST STYLE FITNESS」(千葉県浦安市)を開業するなど今後の収益・事業エリアの拡大を進めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、39,833百万円(前年同四半期比2.6%増)となり、利益面については、営業利益1,346百万円(同59.9%増)、経常利益1,445百万円(同428.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益594百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失141百万円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① 婚礼事業

当第3四半期連結累計期間においては、主力である国内ゲストハウスにおける施行組数は減少しましたが、海外挙式においては施行組数が増加したことなどにより売上高は微増となり、利益面についても、昨年より取り組んでまいりましたコストダウン施策の効果によりセグメント利益は増加しました。

この結果、当セグメントの売上高は24,338百万円(前年同四半期比1.0%増)、セグメント利益は2,584百万円(同0.8%増)となりました。

② ホテル事業

当第3四半期連結累計期間においては、ホテル婚礼について施行組数が微増となり、宿泊稼働率、単価についても総じて堅調に推移したことにより売上高は増加し、利益面については婚礼事業同様コストダウン施策の効果や当期において開業費用が発生しなかったことにより増加となりました。

この結果、当セグメントの売上高は12,803百万円(前年同四半期比2.3%増)、セグメント利益は318百万円(同214.4%増)となりました。

③ W&R事業

当第3四半期連結累計期間においては、複合温浴施設「美楽温泉SPA-HERBS」の通期(四半期)稼働により売上高は増加しましたが、利益面については総合フィットネスクラブ「BEST STYLE FITNESS」に係る開業費の計上により損失となりました。

この結果、当セグメントの売上高は2,691百万円(前年同四半期比21.3%増)、セグメント損失は271百万円(前年同四半期はセグメント損失349百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,472百万円減少して、82,280百万円となりました。これは主に、「ザ ストリングス表参道」の建設により有形固定資産のその他(主に建設仮勘定)が1,268百万円増加しましたが、転換社債型新株予約権付社債の期限前償還等により現金及び預金が3,083百万円、減価償却等により建物及び構築物が522百万円それぞれ減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ2,384百万円減少して、48,139百万円となりました。これは主に、運転資金の調達により短期借入金が2,020百万円増加しましたが、期限前償還に伴い転換社債型新株予約権付社債が4,500百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ87百万円減少して、34,141百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益が594百万円あったものの配当金の支払により477百万円減少し、利益剰余金が117百万円増加しましたが、為替換算調整勘定が163百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当連結会計年度(平成29年12月期)の業績予想につきましては、平成29年8月10日付第2四半期決算短信にて公表いたしました数値に変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,468	12,385
売掛金	966	1,021
商品	114	115
原材料及び貯蔵品	506	545
その他	2,008	2,427
貸倒引当金	△64	△43
流動資産合計	19,000	16,451
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	23,597	23,074
土地	21,156	20,860
その他(純額)	2,585	3,853
有形固定資産合計	47,338	47,788
無形固定資産		
のれん	2,271	2,071
その他	272	248
無形固定資産合計	2,543	2,319
投資その他の資産		
投資有価証券	3,058	2,979
敷金及び保証金	8,649	8,679
その他	4,062	3,974
投資その他の資産合計	15,771	15,633
固定資産合計	65,653	65,742
繰延資産	98	86
資産合計	84,752	82,280

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,362	2,411
短期借入金	—	2,020
1年内返済予定の長期借入金	13,062	9,742
1年内償還予定の社債	824	744
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	—	500
未払法人税等	1,112	460
前受金	1,336	2,191
その他	3,366	3,553
流動負債合計	22,065	21,622
固定負債		
社債	3,684	3,500
転換社債型新株予約権付社債	5,000	—
長期借入金	15,747	18,930
退職給付に係る負債	332	350
役員退職慰労引当金	702	729
資産除去債務	2,339	2,364
その他	652	641
固定負債合計	28,459	26,516
負債合計	50,524	48,139
純資産の部		
株主資本		
資本金	472	472
資本剰余金	634	634
利益剰余金	32,090	32,208
自己株式	△892	△892
株主資本合計	32,304	32,422
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△58	△50
為替換算調整勘定	376	212
退職給付に係る調整累計額	△3	△4
その他の包括利益累計額合計	313	157
非支配株主持分	1,610	1,561
純資産合計	34,228	34,141
負債純資産合計	84,752	82,280

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
売上高	38,829	39,833
売上原価	27,720	27,753
売上総利益	11,109	12,080
販売費及び一般管理費	10,266	10,733
営業利益	842	1,346
営業外収益		
受取利息	39	28
受取配当金	29	23
匿名組合投資利益	152	163
投資有価証券償還益	122	—
不動産賃貸収入	92	189
為替差益	—	78
その他	91	88
営業外収益合計	527	571
営業外費用		
支払利息	182	163
デリバティブ評価損	270	189
為替差損	593	—
その他	49	119
営業外費用合計	1,096	472
経常利益	273	1,445
特別利益		
固定資産売却益	1	0
投資有価証券売却益	—	1
役員退職慰労引当金戻入額	14	—
店舗閉鎖損失引当金戻入額	4	—
特別利益合計	20	1
特別損失		
固定資産除却損	56	11
投資有価証券売却損	117	10
減損損失	—	149
その他	2	0
特別損失合計	177	171
税金等調整前四半期純利益	116	1,276
法人税等	267	661
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△150	614
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△9	19
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△141	594

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△150	614
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△78	8
為替換算調整勘定	△614	△215
退職給付に係る調整額	△0	△0
その他の包括利益合計	△694	△207
四半期包括利益	△845	406
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△721	438
非支配株主に係る四半期包括利益	△123	△32

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(簡便な会計処理)

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	婚礼事業	ホテル 事業	W&R 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	24,093	12,516	2,219	38,829	—	38,829
セグメント間の内部売上高又は振替高	877	301	0	1,178	△1,178	—
計	24,970	12,817	2,219	40,008	△1,178	38,829
セグメント利益又はセグメント損失(△)	2,565	101	△349	2,317	△1,474	842

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,474百万円には、セグメント間取引消去15百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,490百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	婚礼事業	ホテル 事業	W&R 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	24,338	12,803	2,691	39,833	—	39,833
セグメント間の内部売上高又は振替高	900	226	0	1,126	△1,126	—
計	25,239	13,029	2,691	40,960	△1,126	39,833
セグメント利益又はセグメント損失(△)	2,584	318	△271	2,630	△1,284	1,346

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,284百万円には、セグメント間取引消去24百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,309百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「婚礼事業」及び「W&R事業」セグメントの一部の固定資産において収益性が低下した状態が続いており、投資の回収が見込めないと判断したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において「婚礼事業」セグメントで139百万円、「W&R事業」セグメントで10百万円であります。

3. 補足情報

施行、受注及び販売の状況

(1) 婚礼施行実績

期別	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)
セグメントの名称	施行件数 (件)	施行件数 (件)	施行件数 (件)
婚礼事業	7,925	8,238	11,401
ホテル事業	1,262	1,268	1,799
合計	9,187	9,506	13,200

(2) 婚礼受注状況

期別	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)		前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	
	受注件数 (件)	受注件数残高 (件)	受注件数 (件)	受注件数残高 (件)	受注件数 (件)	受注件数残高 (件)
セグメントの名称						
婚礼事業	9,191	7,282	9,741	7,681	11,563	6,178
ホテル事業	1,417	1,397	1,394	1,383	1,814	1,257
合計	10,608	8,679	11,135	9,064	13,377	7,435